

LD、ADHD、高機能自閉症 支援ガイド

～ 一人一人の理解と

一人一人のニーズに応じた支援のために ～

京 都 府 教 育 委 員 会

特別支援教育推進体制モデル事業調査研究運営会議

目 次

はじめに	1
本冊子の構成と使い方	2
第1部 LD、ADHD、高機能自閉症等の子どもの様子、考えられる要因と支援の手立て	
1 聞くことが苦手なんだ	4
2 うまく話せないんだ	6
3 読むことが苦手なんだ	8
4 うまく書けないんだ	10
5 計算が苦手なんだ	12
6 文章題が苦手なんだ	14
7 まわりが気になって集中できないんだ	16
8 わかってるんだけど落ち着けないんだ	18
9 衝動的に動いてしまうんだ	20
10 人との関係がうまくいかないんだ	22
11 コミュニケーションがうまくとれないんだ	24
12 なにか気になってしかたがないんだ	26
不器用な子どもへの配慮と支援	28
特に行動上の問題が見られるときの対応	29
第2部 「特別な教育的支援を必要とする子ども」を支援する体制の整備	
「特別な教育的支援を必要とする子ども」を支援する学校体制	31
学校を支援するシステムの整備	35
総合推進地域宇治市における取組	36
第3部 専門家、保護者からのメッセージ	
精神科医からのメッセージ	39
小児科医からのメッセージ	40
作業療法士からのメッセージ	41
臨床心理士からのメッセージ	42
保護者からのメッセージ	43
保護者の手記	44
Q&A「医療や心理の専門機関を訪ねるときに大切なこと」	46
調査研究運営会議及び専門家チーム委員名簿、執筆者一覧	48

4 うまく書けないんだ

Dさんは、小学校2年生です。家ではとても元気な子で、生活の中で困ることはありません。幼稚園の時は、どちらかというとしっかりもののDさんでした。

しかし、小学校に入学し、教科の学習が始まるようになると、元気がなくなってきました。ひらがなはなんとか覚えたのですが、「きょうりゅう」を「きやりゅう」や「きゅうりゅう」と書いてしまいます。また、「きゅうり」は「きょうり」、「きやらめる」は「きゅらめる」になってしまいました。

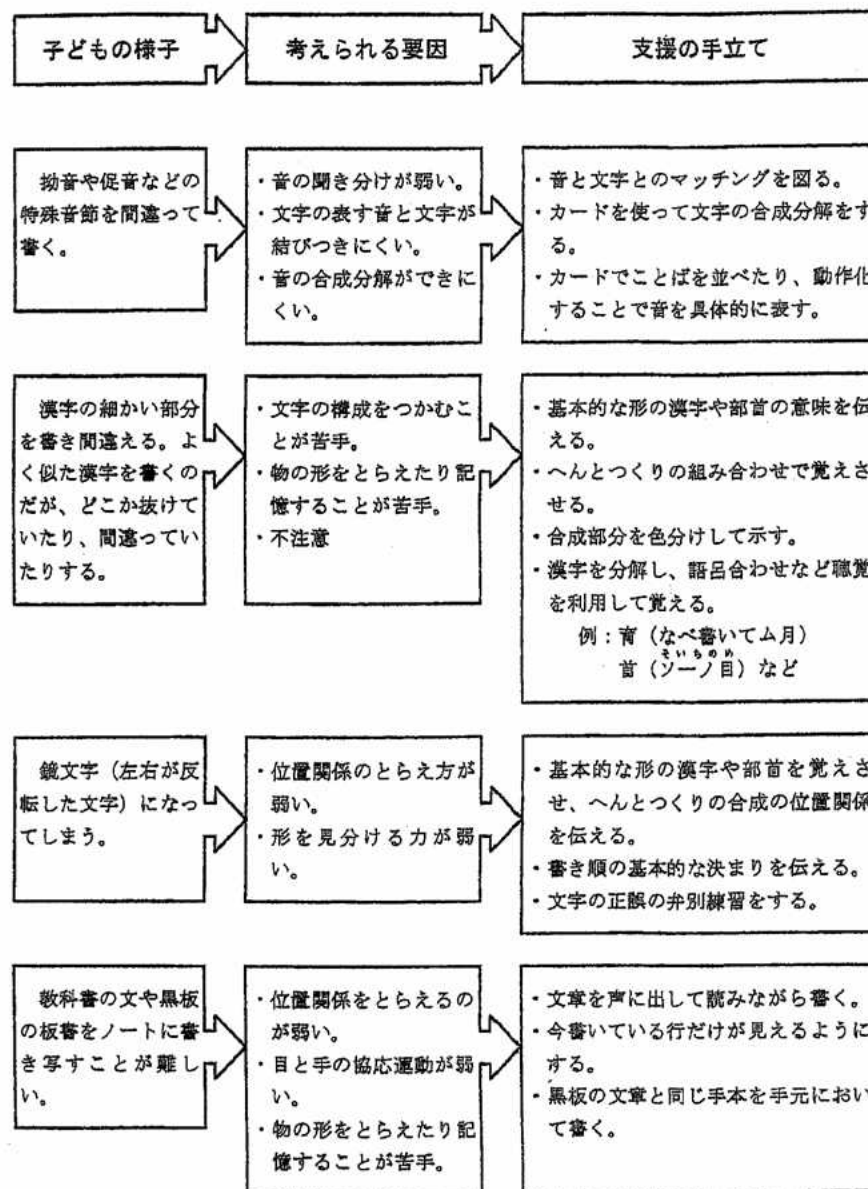
なんとなく「このような文字」ということはわかっているのですが、正確に書くことができません。「にゅ」「みゃ」のように書くことが少ない文字については、「みゅ?」「にゃ?」と聞き返すことも多く、またなかなか文字が思い出せないようです。

「つまる音」や「ねじれた音」のような特殊音節の表記になったとたんに、うまく書けなくなっていました。

このように書くことに苦労している子どもがいます。

- ・拗音や促音などの特殊音節を間違えて書く。
- ・漢字の細かい部分を書き間違える。よく似た漢字を書くのだが、どこか抜けていたり、間違っていたりする。
- ・鏡文字（左右が反転した文字）になってしまう。
- ・教科書の文や黒板の板書をノートに書き写すことが難しい。

これらの「子どもの様子」「考えられる要因」「支援の手立て」を考えると次のページようになります。



7 まわりが気になって集中できないんだ

Gさんは小学校1年生です。小学校の生活や学習は目新しく楽しいようで、何に対しても興味いっぱいです。

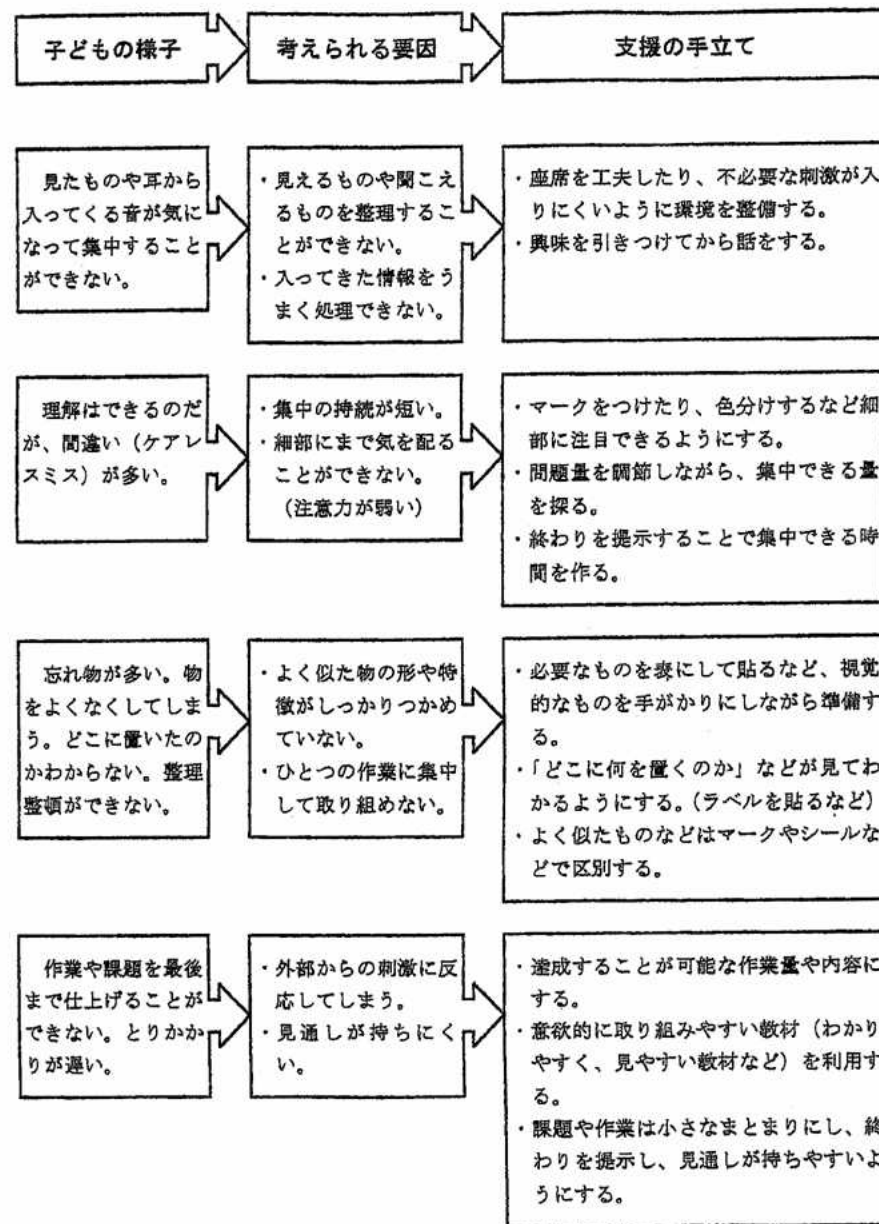
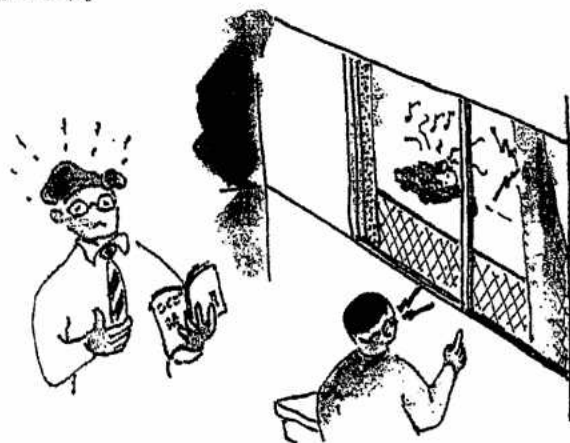
何かおもしろそうな教材を見ると、「何だろう。」と気になって仕方がありません。説明の声は届いていないようです。あとになって「どうするの？」と聞きに行くことになります。

また、プールから「ビー」という笛の音が聞こえてくると気になって仕方ありません。おちおち椅子に座っていることができず、椅子の上に立ってプールの方を見えています。先生が注意するのですが、注意されている時に「ビー」と音がすると、またプールが気になり、見てしまいます。

このように集中するのに苦労している子どもがいます。

- ・見たものや耳から入ってくる音が気になって集中することができない。
- ・理解はできるのだが、間違い（ケアレスミス）が多い。
- ・忘れ物が多い。物をよくなくしてしまう。どこに置いたのかわからない。整理整頓ができない。
- ・作業や課題を最後まで仕上げることができない。とりかかりが遅い。

これらの「子どもの様子」「考えられる要因」「支援の手立て」を考えると次のページのようにになります。



10 人との関係がうまくいかないんだ

Ｊさんは中学生です。班で歴史新聞作りの内容を話し合っていた時のことです。「何時代を選ぶか」で友だち同士が言い合いになり、けんかになりました。他の子は、はらはらして止めに入ろうとしています。

その時Ｊさんは「安土桃山時代がいいと思います。」と目の前のけんかが目に入っていない様子です。他の子から「何言ってるの！けんかしてはやるよ！」ときつい口調で注意されたのですが、「じゃあ、平安時代でもいいです。」と返事しました。

このようなことが時々あり、Ｊさんは、自分勝手に思いやりがないと誤解されてしまうことがよくあります。

Ｊさんは思いやりがないのではなく、友だちの表情や場面の理解ができていないのです。

このように自分と他者との関係がわかりにくいことで苦労している子どもがいます。

- ・相手の表情や口調が読みとりにくい。
- ・場面の状況の理解が難しい。
- ・あいさつ、お礼等がうまく言えない。人への接し方がわからない。
- ・まわりの人が言わないことも、配慮なしに言ってしまう。

これらの「子どもの様子」「考えられる要因」「支援の手立て」を考えると次のページのようになります。

